

令和7年2月10日

「新「道の駅」かんおんじ（仮称）基本計画（案）」についての
パブリック・コメント手続実施結果

令和6年12月25日から令和7年1月24日までの31日間「新「道の駅」かんおんじ（仮称）基本計画（案）」について実施したパブリック・コメント手続では、5人から38件の意見をいただきました。ご意見をいただきありがとうございました。

これらの意見について、意見に対する市の考え方とあわせて以下に示します。

今後とも市政につきまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

○意見を募集した施策等：「新「道の駅」かんおんじ（仮称）基本計画（案）」

○提出意見 <意見の提出者数> 5名 <意見の数> 38件

<意見の提出方法> 電子メール 3件

持参 2件

※提出いただいたご意見は、趣旨を変えない範囲内で、簡略化または文言等の調整をしています。

【問い合わせ先】

住 所：〒768-8601

観音寺市坂本町一丁目1番1号

担 当：政策部プロジェクト推進課

電 話：(0875)23-7577

F A X：(0875)23-3920

E-mail：project@city.kanonji.lg.jp

No.	該当箇所	ご意見（要約）	意見に対する市の考え方
1	<p>第1章 はじめに</p> <p>1 新「道の駅」の位置付けと必要性</p> <p>3) 観音寺市における新たな道の駅の必要性</p> <p>2 新「道の駅」の基本理念・基本目標</p> <p>1) 新「道の駅」の基本理念</p>	<p>可能であるなら今からでも「本計画を中止していただきたい」というのが率直な思いです。今なぜ観音寺に新しい『道の駅』が必要なのか全く理解できません。新しい『道の駅』の基本理念に「本市と交流人口の増加に加え、さらに強い結びつきを有する関係人口の増加により、本市と四国や全国をつなぐ拠点とします。」とありますが、新しい『道の駅』をつくることで、本当にこの理念が果たせると考えているのでしょうか、疑問に思います。関係人口を増やすのであれば他にいくらでも方法はあります。日本中を見渡しても、世界に向けて情報を発信し、世界中から人が集まっている場所はいくらでもあります。防災拠点としての役割を担うのであれば、それは『道の駅』でなくてもできるのではないのでしょうか。</p> <p>大切なことは、“モノ”をつくるのではなく“コト”をつくることです。新しい『道の駅』へ行って何かをするのではなく、観音寺へ行けば何ができるのか、そんな情報を発信していくことが必要です。そのための“ヒト”を育てていかなければなりません。それが新しい『道の駅』をつくることで実現できるとは思えないのです。“ヒト”が育ち、その“ヒト”が観音寺で“コト”を起こせば町は活性化していきます。</p> <p>「新『道の駅』かんおんじ（仮称）基本計画（案）」の中止を申し上げたのは、この基本計画（案）が未来の観音寺にとって有益なものとは思えないからです。現時点での観音寺の課題や問題点を解消するだけでなく、「10年後、20年後、30年後、更には50年後の観音寺を考えていますか？」と申し上げたい。「今、この基本計画（案）を検討している方々の中に、50年後の観音寺を想定している人がいますか？」と問いかけてみたい思いです。</p> <p>中学生や高校生からアンケートをとり参考にさ</p>	<p>ご意見のとおり、“モノ”だけでなく“コト”“ヒト”が重要であると本市も認識しており、活性化に向けて取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、国においては地方創生の拠点となる「道の駅」の活用が期待されており、本市においても、新たな道の駅を整備することは、交流・関係人口を増やすための有効な施策の1つだと考えています。</p> <p>さらに、令和6年能登半島地震においては、防災拠点として道の駅が大きな役割を担っており、新たな道の駅は、平時には交流・関係人口を拡大し、地域の活性化に繋げ、災害時には防災拠点として、活用できるものと考えています。</p> <p>なお、日本は人口減少・少子高齢化が進行しており、観音寺市も例外ではなく、国立社会保障・人口問題研究所によると、令和42（2060）年には人口が33,563人まで減少すると推計されています。人口減少に起因する影響</p>

		<p>れているようですが、表面だけの文言を読み取り、その奥に隠れている本質を見ていないのではないのでしょうか。私たちの大切な血税が投じられる事業です。本当に彼らのことを考え、彼らの50年後の生活を想って新しい『道の駅』をつくろうとしているのかどうか、今一度再確認していただきたい。</p>	<p>を縮小・緩和し、地域経済の活性化に対応することで、観音寺市の持続可能な発展に繋げるため、新たな道の駅を整備したいと考えています。</p>
2	<p>第1章 はじめに 3 建設候補地</p>	<p>位置としては学校・老入ホーム・住宅地から離れている。よって、道の駅へのアクセス方法を計画しなければ地元住民が集まらない。</p>	<p>市としても、市民が訪れやすいアクセス方法を整備することは必要と考えています。 新たな道の駅には交通結節点としてバス等の停留所を整備する予定ですので、のりあいバス等の活用も含めて検討していきます。</p>
3	<p>第1章 はじめに 3 建設候補地</p>	<p>道の駅の立地は南海トラフ大地震に耐えられるのか？</p>	<p>建設候補地については、津波・高潮・洪水・浸水想定区域外のエリアとなっており、防災拠点として活用できる立地と考えています。</p>
4	<p>第1章 はじめに 3 建設候補地</p>	<p>四国高速8の字の中心(川之江市)に近い。加えて川之江には道の駅が無いことを鑑みて、高速道路を活用した物資輸送の拠点と位置づける。特に太平洋沿岸への物資輸送。</p>	<p>市としても、四国4県を結ぶ高速交通ネットワークである四国8の字ネットワークの中心に近い地理的条件を活かすことは重要と認識しておりますので、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
5	<p>第2章 新「道の駅」の導入機能 2 導入機能</p>	<p>基本目標2では「四国全域のゲートウェイとして観光客を招き入れ」となっていますが、インバウンド増加の「しかけ」が何も示されていない。道の駅の世界ブランド化は国の示す「3つの姿」の</p>	<p>市としても、瀬戸内国際芸術祭やお遍路に関連したインバウンドを呼び込むことは必須と考えてお</p>

<p>1) 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>1つですが、四国で外国人にアピールでき、特筆できるものと言えば、瀬戸芸と遍路ではないでしょうか。外国人観光客はゴールデンルート(東京、富士山、京都、大阪)が専ら主流で、瀬戸芸には岡山から直島へ直接行って帰っているのが実態です。</p> <p>遍路は巡礼ツーリズムの文化体験と位置付けられ、歩き遍路が年間約2,000人で、その内約4分の1が外国人と言われています。遍路文化は世界遺産登録を目指していることもあり、情報発信や簡易宿泊設備などが必要と思われますが、新道の駅の導入機能には盛り込まれていないようです。</p> <p>車利用の旅行客にも便利で利用しやすいカプセルの宿泊設備はコスパを考えると大変有用な設備と考えられます。1月7日の説明会で、佐伯市長はマリオットホテルの誘致について話されていましたが、新道の駅との結びつきや連携プランについての説明はなく、むしろ新道の駅利用者にとってはカプセルのような安価な簡易宿泊設備の方が実用的で有用と思われます。</p>	<p>り、これらの機会を有効に活用しながら、インバウンドの増加に向けた取り組みをしていきたいと考えています。</p> <p>JRやバスなど様々な移動手段で来訪されることを踏まえながら、新たな道の駅へのアクセスや周遊ルートの設定など具体的には、今後募集する運営事業者や市内事業者等と検討していきます。</p> <p>また、安価な簡易宿泊施設については、新たな道の駅の整備により観光客数が増加することで、民間投資エリアや観音寺市内に民間事業者が整備していただけるよう働きかけていきます。</p>
<p>6 第2章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>1) 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>基本目標4では、導入機能として「大規模災害時の緊急避難場所」、「広域的な防災拠点」を示しているが、具体的な施設や設備をどのように考えているのか、(案)には何も示されていない。災害対応拠点として必須とされる施設等としては、衛星携帯やIP無線等の通信設備、屋上ヘリポート、備蓄、非常用電源設備等の高所設置、指揮・作戦室等であるが、具体的に示されているのは駐車場と併用のヘリポートだけでした</p> <p>発災後最も大事なものは、72時間以内の救命・救助であることから説明会で、新道の駅の役割を質問したところ、発災直後の72時間までの対応について、市長以下の出席幹部には市の災害対策本部との使い分けには考えが及んでいないようでした。発災直後は市庁舎に設置される災害対策本部</p>	<p>新たな道の駅の防災拠点の活用方法については、令和7年度から具体的に検討していくこととなりますが、発災直後は道の駅利用者や道路利用者、近隣住民の緊急避難場所として活用することを想定しております。</p> <p>その後、自衛隊などの広域応援部隊の活動拠点や支援物資の中継基地となる物資集積拠点(一次(広域)物資拠点支援施設)として活用する想定です。</p>

	<p>が救命・救助を担うはずで、それならば観音寺市の規模で新道の駅を同時に機能させるのは不可能なので発災後1週間～2週間後からの機能発揮なのかとの質問にも明確な回答はなかった。</p> <p>また、佐伯市長は私の屋上ヘリポートの提案を直ちに否定して駐車場併用のヘリポートで対応すると回答していたが、新道の駅は発災後の避難場所としていることから、避難民や車両が詰めかけた駐車場の様子をイメージすれば避難車両や避難住民を押しつけて、ヘリの進入・着陸・離陸スペースを確保するのが困難であることは火を見るより明らかです。市長発言はハザードマップにより新道の駅までは津波は到達しないとの判断に基づくものかもしれませんが、東日本大震災での福島原発被災はハザードマップの予想を上回る津波によるものだったことは全国民が知るところです。</p> <p>新道の駅の立地は海岸線からフラットな地形です。万が一にも被災し、駐車場併用ヘリポートが使い物にならないことになれば、「予算上の都合」とか「想定を超えていた」との理由では済まされないことになります。</p> <p>屋上ヘリポートは予算的に5,000万円以上を要しますが、まさに一刻を争う、生死を分ける非常事態時の生命線として20-30年以上使うことを考えれば、決して高いものではないし、三豊総合病院にドクターヘリのヘリポートがないこと、四国の広域災害対応拠点として自衛隊や警察ヘリ等の離発着を考え合わせれば、せめて屋上ヘリポートは真に必要な防災施設として整備願いたい。そうでなければ(案)に示している「四国全域の広域的な防災拠点としての役割を担える機能を道の駅に整備する」とは言えないのではないのでしょうか。現在の計画では災害対応車両の駐車場所にしか使えないと思われます。</p> <p>どうせ作るなら中途半端なものではなく全国のリーディングケースを目指し、四国は観音寺が救</p>	<p>また、新たな道の駅内の各施設別の活用方法も含めた具体的な運用方法について、市民に分かりやすく示していきます。</p> <p>市役所に設置する災害対策本部は、災害情報の収集や災害対策の指示を行う司令塔となるものであり、新たな道の駅とは異なる役割を担うものとなりますので、P66(3)に関連する記述を追記します。</p> <p>なお、屋上ヘリポートについても、整備費や維持管理費、効果などを踏まえ、今後も引き続き必要性を精査していきます。</p>
--	---	--

		<p>うとの高い志を持っていただきたい。南海トラフ地震は30年以内の発生確率が80%に上がりました。屋上ヘリポートは災害対応のシンボリックな施設として極めて重要な存在です。また、三豊総合病院のDMATも活動の幅が広がるのではないのでしょうか。</p> <p>被災者が仰ぎ見るヘリコプターは希望の光に見えます。「万が一」が起こっても住民の心に希望の光を灯し続けるのが、市長や行政の責務ではないのでしょうか。</p>	
7	<p>第2章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>1) 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p> <p>3) 導入機能の面積・需要予測</p>	<p>以前「市長への手紙」で、観音寺市は絵画、書道、茶道、花道などの文化芸術に対する意識が低く、それらの発表や鑑賞する場が隣接する四国中央市や善通寺市と比べて圧倒的に少なく、文化の谷間になっているので、市民が集える新しい道の駅にはそういった施設が設けられるべきと提言していたところ、オープンラウンジにおいて利用できる旨の回答をもらっていました。</p> <p>ところが、(案)のカフェ・オープンラウンジの面積は、(案)のP27表6に300㎡で100名程度が利用する閲覧室(200㎡)と10名程度が利用可能な会議スペース25㎡を4室として設定と示されていましたが、カフェとオープンラウンジの区分や閲覧室の内容が不明なため、果たして文化芸術に利用できるのか疑問に感じています。スペースを弾力的に運用するのであれば、例えば天井吊り下げのパーテーションによる分隔や作品をライトアップする照明器具の設置は不可欠と思われますが、(案)ではあまりにアバウト過ぎて具体的なイメージができませんでした。基本目標1の「全ての市民が日常的に訪れ、憩い、体験、交流、活動できる拠点づくり」を目指しているのであれば、地元住民の全ての年齢層を対象とした施設、設備とすべきです。イメージとしてはどうしても子供連れのファミリーになりがちですが、シニア世代を中心とした50代以上の住民が圧倒的に多</p>	<p>オープンラウンジについては、サークル活動など様々なことに利用することができるスペースとして整備します。</p> <p>ご指摘のとおり詳細については記載しておりませんが、全ての年齢層の方が使いやすいものとなるよう整備していきます。</p> <p>今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>

		<p>いことを無視したのでは、「全ての市民が日常的に訪れ」とはならないでしょう。</p> <p>良い例が高松にあります。高松市美術館は来館者が大幅な増加傾向にあり、好調だそうです。これは様々なイベントや企画、展示の成果だそうで、市民の文化、芸術への関心の高さが分かります。そして賑わいの創出にも繋がっているとのことなので、新道の駅に地元住民が無理なく恒常的に集える機会は何かと言えば、やはり文化的なイベント、企画、展示ではないでしょうか。高松市美術館は「より親しみやすい美術館を目指したことが来館者の増加につながったと考えている」としています。費用はかけずに知恵とスペースがあれば賑わいは創出できるのです。高松市美術館の「しかけ」を見習ってみてはいかがでしょうか。是非発想の転換をお願いします。</p>	
8	<p>第2章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>地元産業との密着を考えていただきたいと思います。ただ単に産直市場を設けるのではなく、少し工夫して観音寺の特色を前面に押し出し、ここで観音寺の産業をPRしていけばよいと思います。アイデアとして、「観音寺の海で獲れた海産物を毎日漁師のお母さんたちが販売する」。人によっては、市場に出さなかった魚を自ら手押し車で販売するお母さんたちもいました。高松では“いただきさん”と呼ばれているそうですが、観音寺でも50年ほど前まではたくさんの“いただきさん”がいました。毎朝、観音寺の海で獲れた新鮮な海産物を“いただきさん”と会話をしながら購入できるとなれば、各地から人が集まってくると思います。伊吹島の『イリコ』も同様に、朝獲れの『イリコ』を販売すればよいと思います。水産物に限らず、農作物も朝獲れの野菜や果物を生産者が直接販売するしくみを是非つくっていただきたいと思います。海産物と同じように生産者の顔を見て会話しながら購入できるとなれば、人は集まってくるのではないのでしょうか。</p>	<p>市としても、観音寺市の地域産品をプロモーションしていかなければならないと考えています。</p> <p>販売方法など詳細については、今後、市内事業者と連携を取りながら検討していきますが、今回いただいたご意見につきましましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>

		<p>新しい『道の駅』で、漁業協同組合や農業協同組合関係なく、一次産業を六次産業化できるしくみを何とかつくっていただきたいと願います。</p>	
9	<p>第2章 新「道の駅」の導入機能 2 導入機能 2) 導入機能のイメージ</p>	<p>第一に、「お遍路さんが訪れる道の駅」をめざすことです。</p> <p>道の駅に接する道路の利用者は通勤、仕事利用者であり、観光客はほとんど通りません。そのためには、観光客が訪れる道の駅、さらには、旅行業者が立案する行程に組み込まれるような道の駅をめざすことが重要と考えます。</p> <p>観音寺市にとって、最も多く訪れている観光客、それは、お遍路さんではないでしょうか。このお遍路さんが訪れてみたくなる道の駅、立ち寄ると特典のある道の駅にすることができれば、かなりの人を呼び込むことができると思います。</p> <p>そのお遍路さんを呼び込む具体策として、以下の2点を提案します。</p> <p>①雲辺寺ロープウェイと連携し、道の駅利用者はロープウェイ代を割引く優遇サービスを取り入れる。</p> <p>マイカー利用のお遍路さんだけでなく、団体利用のお遍路さんについても旅行会社やバス業者を通じて、団体割引運賃より更に割引く。</p> <p>②道の駅内に「最大級のお遍路グッズ販売店（売り場）」を誘致する。</p> <p>「ここに立ち寄れば、お遍路グッズはなんでもそろろう」と思ってもらえるような店（売り場）を設置すれば、「お遍路さんの道の駅」として口コミが広がり、団体のお遍路ツアーを企画・運営している業者も行程に組み込んでくれるのではないのでしょうか。</p> <p>次に、めざすべきは、近隣市町の住民がリピートしたくなる道の駅です。</p> <p>利用者が途絶えない道の駅と人影がまばらな道の駅の分かれ目は、リピーターの有無にあると思います。</p>	<p>市としても、お遍路さんや姉妹都市に関連した取り組みは必要と考えています。</p> <p>ご提案いただいた内容も含め、詳細については、今後募集する運営事業者と検討していきますが、今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>

	<p>実際、仕事で他の地を訪れたとき、私が2度、3度と繰り返し訪れている道の駅は、例外なく、いつ立ち寄っても、多くの人々が利用しています。私が2度、3度と繰り返し訪れる道の駅の共通点は、「ここに行けば味わえる」「ここにいけば買える」「ここに行けば体験できる」という魅力を持っているということです。</p> <p>基本計画（案）で示された「多目的広場」や「屋内キッズスペース」も魅力ある施設だと思いますが、同じような施設は、ほかにもあります。</p> <p>そこで、「ほかにはない魅力を持った道の駅」にするために、以下の2点を提案します。</p> <p>③姉妹都市と提携した商品の販売</p> <p>たとえば、宇和島市にある道の駅「きさいや広場」には、北海道のチョコレートブランド「ロイズ」の販売店があり、宇和島市民だけでなく、南予から買い求めにやってきます。</p> <p>観音寺市が姉妹提携している市や村にも魅力的な商品や施設があります。</p> <p>【滋賀県草津市】うばがもち、近江牛</p> <p>【北海道真狩村】ゆり根大福、ゆり根愛す</p> <p>【アップルトン市(アメリカ)】子ども向け施設 Building for Kids</p> <p>観音寺市の特産品や産物を販売するだけでなく、姉妹都市の商品を販売できれば、観音寺市民はもとより近隣市町の人たちにとっても、「ほかにはない魅力ある道の駅」として認知されることと思います。そして、姉妹都市連携を実質的に進める方策でもあり、また、観音寺市の魅力を姉妹都市側でも広めていただくきっかけになると思います。</p> <p>④観音寺の観光名所のミニチュアサイズを展示する。</p> <p>ミニチュアサイズによる世界遺産のテーマパークとして有名な東武ワールドスクウェア、淡路ワールドパーク ONOKORO などは、いずれも 1/25 で</p>	
--	--	--

		<p>再現しています。そこで、同じ 1/25 サイズで再現すると</p> <p>銭形砂絵(東西 122m、南北 90m)は 4.88m×3.6m</p> <p>豊稔池堰堤(堤長 145.5m、堤高 30.4m)は、W5.82m H1.216m</p> <p>お遍路さんが訪れる道の駅、近隣市町の人が何度も訪れる道の駅が作られることを期待しています。</p>	
10	<p>第 2 章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>物販では四国広域の物産が集まるとのことですが、高松オルネのような四国各県の土産品売場とか産直売場であれば今治市の「さいさいきてや」、西条市の「周ちゃん広場」のような生産者に売場情報がリアルに伝わるシステムが売り上げに直結するので望ましいと思われます。</p>	<p>販売状況を把握することができるシステムについては重要であると認識しており、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
11	<p>第 2 章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>建設予定地に包含されている「ちょうさ会館」とのコラボも示されていますが、同会館の現在の利用者は非常に少なく、現状のままでは時代遅れの遺物になってしまいます。同会館広場の再整備とは書かれていますが、これは国道 11 号との交差点改良と思われ、同会館がこのままでは新道の駅全体のクオリティを下げってしまうので、併せて同会館の改修を行って、文化的イベントができる部屋や設備を設けることで、災害時の作戦室など弾力的な運用もできるので同会館自体の利用者増にもつながると考えます。</p>	<p>ちょうさ会館の広場を再整備としているのは、新たな道の駅と一体的に利用できる広場とするイメージです。</p> <p>ちょうさ会館の館内も含め新たな道の駅と一体的に利用することで相乗効果を生み出したいと考えています。</p>
12	<p>第 2 章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p>	<p>シェアモビリティステーションとしてサイクリングコースの普及促進を示しており、市内周遊ルートを作るらしいが、サイクリングロードの路面表示や案内看板も必要になると思われます。</p>	<p>サイクリングロードの路面表示や案内看板についても検討したいと考えており、既に整備されている四国一周 1,000 キロルートも活用しながら検討していきます。</p>
13	<p>第 2 章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p>	<p>地域産業振興の内容をもっと具体化する必要がある。</p>	<p>新たな道の駅に本市の特産品である農畜水産物や地域産品を集積させることで、市内に流入する資</p>

	2) 導入機能のイメージ		金を地域で循環させ、地域産業を活性化させる仕組みを検討していきます。 また、産業振興施設においては、新商品の試行販売やチャレンジショップのほか、新商品開発相談・支援機能を備えるとしています。
14	第2章 新「道の駅」の導入機能 2 導入機能 2) 導入機能のイメージ 3) 導入機能の面積・需要予測	基本計画（案）の中で最も重要な数字として捉えたのが、来場者予測数として想定している85万人/年と想定年間売上高の約8億2,400万円でした。この二つの数値から一人あたり1回の利用で平均約970円の消費額という数値が導き出すことができます。この一人あたりには、0歳の赤ちゃんも当然カウントされていると思います。そうなると、正直、970円という数値は、ハードルが高い数値だと感じました。一方で、市長様が説明されたように、今回、建設する道の駅が休憩場所だけでなく、目的地となれば、実現可能だとも思いました。 建設予定地に接している国道11号線及び県道先林姫浜線の交通量はそれなりにあると思います。ただし、そのほとんどは朝夕の通勤利用と昼間の仕事利用で、観光バスはほとんど通りません。通勤や仕事利用のドライバーが道の駅を利用しても、利用するのはトイレくらいで設置する施設の大部分は利用しないでしょう。とすれば、このような人たちは1回あたり多くて200円程度（飲み物1本買うくらい）で、消費金額0円の人も多数になると思われます。結果、停まっている車の割に、売り上げは伸びないという状況は停まっているけれど、施設は少ないという状況に陥ることが危惧されます。	お見込みのとおり、単にトイレ休憩のために訪れる方の消費額は低い可能性が高いと考えられます。一方で需要予測のアンケートでは、1家計ごとの予算の平均値は11,690円となっています。 新たな道の駅は四国全域のゲートウェイとして、多くの観光客に来場いただく想定としており、それらを踏まえて年間売上高を約8億2,400万円と想定しています。
15	第2章 新「道	毎日685人も来てもらえるのかどうか	来場者数予測について

	<p>の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p> <p>3) 導入機能の面積・需要予測</p>	<p>年間 25 万人 (1 日約 685 人) の来場を目標にしているとのことですが、この数字は本当に達成可能なのでしょうか？ 観音寺市やその周辺には既に多くの公園やお店、道の駅があります。この新しい道の駅が「どう違うのか」「どんな新しい魅力を提供するのか」、そして 10 年、20 年先も人を引き付け続ける仕組みがあるのか、具体的な計画を教えてください。</p> <p>また、「ちょうさ会館」の例のように、オープン当初は賑わっていても、後々利用が少なくなってしまう施設もあります。同じ状況にならないようにするため、長期的な集客戦略をしっかりと考えていただければと思います。</p>	<p>は、前面道路交通量やアンケート結果などにより年間 85 万人 (単純計算 1 日約 2,300 人) の方に来場していただけると想定しています。</p> <p>ご意見のとおり、長期的な集客戦略は重要と認識しておりますので、P63 及び P66 に事業運営計画に関する記述を追記し、具体的な計画については、今後募集する運営事業者と検討していきます。</p>
16	<p>第 2 章 新「道の駅」の導入機能</p> <p>2 導入機能</p> <p>2) 導入機能のイメージ</p> <p>3) 導入機能の面積・需要予測</p> <p>第 5 章 事業計画</p> <p>4 収支予測</p> <p>1) 年間売上高</p>	<p>毎回 9,000 円も使うのは現実的？</p> <p>計画では、1 人あたり 3,000 円、1 ファミリーで 9,000 円の利用を見込んでいるとのことですが、これを 10 年以上続けていかないと採算が取れないという理解です。しかし、子育て中の家庭にとって、毎回この金額を使うのは現実的に厳しいのではないのでしょうか？</p> <p>例えば、現在観音寺市の公園に訪れているファミリーに対して「その公園で同じ金額を支払えるか」、または道の駅に買い物に来ている人々に対して「毎回 3,000 円程度を支払うことが可能か」という内容でアンケートを取ることで、現実的な消費額や利用頻度を確認できるのではないのでしょうか？</p> <p>家計への負担を考えると、もっと気軽に訪れやすい価格設定や、幅広い層が楽しめる多様な楽しみ方を提案していただけると、より多くの方に利用していただける施設になると思います。</p> <p>また、地域住民や観光客が 10 年以上にわたり同じペースで消費を続けられる仕組みをどう作るのか、その具体的な根拠や計画についても教えて</p>	<p>本計画で示している年間売上高と年間来場者数から単純に計算すると、1 人あたり約 969 円となります。</p> <p>また、需要予測のアンケートでは、1 家計ごとの予算の平均値は 11,690 円となっています。</p> <p>また、新たな道の駅には、オープンラウンジや子どももの遊び場など子どもから高齢者まで幅広い方がお金を消費しなくても集える施設を整備したいと考えています。</p> <p>気軽に訪れやすい道の駅になるとともに、長期に渡り多くの方に道の駅で買い物等をしていただくことが重要と認識してお</p>

		いただければ安心できます。	りますので、P63 及び P66 に事業運営計画に関する記述を追記し、具体的な計画については、今後募集する運営事業者と検討していきます。
17	第2章 新「道の駅」の導入機能 2 導入機能 3) 導入機能の面積・需要予測	年間 85 万人の訪問を維持するための施策立案が必要である。そのためには Vision や方針が来訪者が理解し、共感できるものでなくてはならない。	市としても、長期に渡り多くの方に来場いただくための方針等は重要と認識しておりますので、P63 及び P66 に事業運営計画に関する記述を追記し、具体的な計画については、今後募集する運営事業者と検討していきます。 将来に渡り持続可能な道の駅運営を図るため、開業後も継続して、市と運営事業者、関連する事業者と一体となって取り組んでいく必要があると考えています。
18	第2章 新「道の駅」の導入機能 2 導入機能 4) 市内回遊性の検討 第5章 事業計画 6 整備効果	事業計画での売り上げの中心は物販と飲食である。地域外からの収入はプラスとなるが、地域内は既存店からのシフトとなる。正味としての経済効果を試算する必要がある。	本計画での経済波及効果は、平成 27 (2015) 年香川県産業連関表 (令和 2 (2020) 年 3 月香川県政策部統計調査課) を用いて算出しています。 ご意見を踏まえた経済波及効果の算出は現状では難しいですが、貴重なご意見として参考にさせていただきます。 なお、市としては、新たな道の駅を活用することで

			滞在型観光をめざし、市内の既存店の魅力を伝え、市内の周遊による地域の活性化に繋がりたいと考えていますので、P33に滞在型観光に関する記述を追記します。
19	第3章 新「道の駅」の施設計画 2 新「道の駅」のプラン（案） 2) 建物等配置プラン及び動線（案）	Family・高齢者・学生・観光客の憩い/体験/交流をそれぞれ考えた施設やレイアウトの設計が課題である。	今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。 来場者の属性や目的を踏まえた設計について、今後募集する運営事業者や設計事業者と検討していきます。
20	第3章 新「道の駅」の施設計画 2 新「道の駅」のプラン（案） 2) 建物等配置プラン及び動線（案）	一の宮の老人ホームや三豊病院までの「動線」を整備する。将来は介護施設の充実や宿泊施設の整備など道の駅エリアとしての価値を高める。	今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきますながら、将来の民間投資を呼び込むため、周辺施設や一の宮公園が新たな道の駅と一体的なエリアとなり、市民や来場者が快適に過ごせる基盤を検討していきます。
21	第5章 事業計画	中長期の歳入出計画を策定し、市政としての投資のバランスを検証する必要がある。	道の駅としての収支予測やライフサイクルコスト等から、新たな道の駅を整備することによる市財政への影響は少ないと考えていますが、将来に渡り持続可能な道の駅運営を図るため、事業計画を定め、適宜継続的に見直

			しながら、市と運営事業者、関連する事業者と一体となって取り組んでいく必要があると考えています。
22	第5章 事業計画 1 概算事業費（イニシャルコスト）	<p>予算を抑え、小さく始める方法も検討してほしい</p> <p>75億円もの予算を一度に投入するのではなく、例えば100分の1程度の予算で試験的に小規模な運用をしてみる方法を検討してはいかがでしょうか？地域の人々の反応を見ながら、必要な機能を段階的に拡大していけば、無駄を減らし、本当に必要な施設を作ることができると思います。</p> <p>また、観音寺市で既に成功している事業や施設を優先的に強化する形での投資の方が、地域全体の成長に直結し、長期的に利益を生み出しやすいのではないのでしょうか？</p>	<p>人口減少による地域経済への影響を緩和するため、交流・関係人口の増加を図るツールのひとつとなり、市民の日常利用や四国全域のゲートウェイとして機能するためには現在の規模の新たな道の駅が必要と判断しています。</p> <p>概算事業費は約75億1,900万円、起債に係る利息が約3億1,700万円、併せて総額約78億3,600万円であり、そのうち市の実質的な負担となる一般財源は約19億4,300万円と想定しています。</p>
23	第5章 事業計画 1 概算事業費（イニシャルコスト）	<p>投資資金の大半が「地方債」となっており、金利・償還の費用が発生する。</p> <p>投資計画75億円の内、起債が58億円（77.5%）と大半が過疎対策事業債の債務となっている。</p> <p>国・県からの交付税で償還する計画となっているが、市の財政を圧迫することは事実であり、予算の優先順位付けと配分を計画する必要がある。</p> <p>償還計画では市の年間予算の「0.5%」程度と記載しているが、事業赤字になると市の財政を悪化させることも考慮しておく必要がある。</p> <p>（参考）観音寺市の公債費比率は「9.6%」であり、香川県内市町で高い方から第3位であり、本事業</p>	<p>利息も含めた概算事業費は約78億3,600万円であり、そのうち市の実質的な負担となる一般財源は約19億4,300万円と想定しています。</p> <p>また、道の駅としての収支予測やライフサイクルコスト等から、新たな道の駅を整備することによる市財政への影響は少ないと考えているとともに</p>

		<p>によって更に高まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起債の償還:17年間(19億円) ・事業ライフプラン:34年間 933百万円年間 27百万円 	<p>に、道の駅が赤字となった場合であっても市から補填をする予定はありません。</p> <p>予算の優先順位付けと配分計画については、本計画の内容とは別に、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
24	<p>第5章 事業計画</p> <p>4 収支予測</p>	<p>事業計画では初年度黒字(年間売上8.2億円)とあるが、コンテンツ計画も併せて立案しておく必要がある。また、撤退基準の制定も必要と考える。</p> <p>撤退の判断としては「数値面」と「交流改善面」の両面で判断できるKPIを設定する。</p> <p>第9回市民検討委員会の討議では「年間売上5億円以下で赤字(市への納付金支払い無し)」</p>	<p>市への納付金を支払わない場合、年間売上高が5億円未満で単年収支が赤字になると想定しています。</p> <p>ご意見のとおりKPIを設定し、運営事業者等と経営状況や戦略を評価・分析、さらにその結果をホームページで公開することで経営の透明化と成長を図っていきたいと考えています。</p>
25	その他	<p>核となる民間企業との資本提携。例えば、アウトドアの企業の(株)モンベルとか、ザ・ノース・フェイスの国内販売を手掛ける(株)ゴールドウインなどと資本提携し、新しい『道の駅』の核となる店舗になってもらえばよいのではないのでしょうか。(株)モンベルの店舗は四国内にもいくつかありますが、集客力があり、新しい『道の駅』のコンセプトにマッチした未来に向け有望な企業がよいと思います。</p>	<p>民間事業者との連携については重要であると認識しており、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
26	その他	<p>若い世代や子育て世代が「行きたい！」と思う施設づくり</p> <p>未来のお父さんお母さんになる若い世代や、現在子育て中の家族にとって、「ここに行きたい！」と思える施設にすることが、長期的な成功の鍵だと</p>	<p>市では、これまでもアンケートや市民、子育て世代を対象としたワークショップなどを開催し、意見収集をしています。</p>

		<p>思います。特に、プロジェクトのイラストや詳細な計画を広く公開し、意見を集めることで、利用者目線のアイデアを取り入れることが大切ではないでしょうか？</p> <p>例えば、現在この道の駅プロジェクトはニュースやYouTubeなどでも取り上げられていますが、SNSやニュース動画での反応が活発で、県内だけでなく全国から「行きたい！」という声が多く集まっていれば、この計画が多くの人々に期待されている証拠と言えるとおもいます。</p> <p>逆に、もしこうした反応が薄ければ、計画の魅力が不足しているか、魅力が十分に伝わっていない可能性が考えられます。その場合は、計画の一部を見直し、さらに広く意見を取り入れるタイミングとして活用することも良いかもしれません。</p>	<p>引き続き意見収集に努めますが、SNSなどの反応を見ながら検討を進めることは重要であると考えますので、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
27	その他	<p>既存施設との差別化の重要性</p> <p>観音寺市やその周辺には既に多くの公園や道の駅（買い物できる場所、農協やスーパーなど）があります。この新しい道の駅が「ここじゃないとダメ！」と思ってもらえるような独自の魅力をどのように作るのか、具体的なプランを教えてくださいましたら嬉しいです。</p> <p>また、これだけの予算を使うのであれば、観音寺市の既存の公園や道の駅を強化することも一つの選択肢として考慮できるのではないかと思います。もちろん新施設を進める方針も理解できますが、観音寺市全体を盛り上げる方法として、既存施設との連携や改善案も併せてご検討いただければ幸いです。</p>	<p>新たな道の駅として、商品や体験など独自の魅力を作ることは非常に重要と認識しています。具体的なプランについては、今後募集する運営事業者と検討していきます。</p> <p>また、近接しているちょうさ会館や一の宮公園の他、既存道の駅と相互連携や新たな道の駅を拠点とした市内周遊の促進については、市内事業者等と検討していきます。</p>
28	その他	<p>近隣のスーパーや商店とのコラボレーションを計画化し、「住みやすさ」の一環を担う。</p>	<p>今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきますながら、近隣スーパーや市内事業者と連携していきます。</p>
29	その他	<p>観音寺市単体で考えるのではなく、道の駅の立地</p>	<p>市としても、四国全域の</p>

		<p>アクセスを考慮し、三豊市・四国中央市・三好市とのシナジー効果を出す。</p>	<p>ゲートウェイとして、周辺自治体と協力しながらにぎわいを広域に波及させたいと考えており、広域観光ルートの創設も含め、今後募集する運営事業者や市内事業者等と検討していきます。</p>
30	その他	<p>四国八十八か所めぐりの中間拠点として位置づけ、地域外および外国人お遍路さんの宿泊・シャワーなどの「お接待」の場とする。</p>	<p>お遍路さんに関連した取り組みとして、お遍路さんに新たな道の駅に立ち寄っていただき、本市の魅力を伝え、体験していただくことを考えていきます。</p> <p>詳細については、今後募集する運営事業者と検討していきますが、今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
31	その他	<p>四国の景観は国内でもとくに美しい。また、地質学的にも優れている。これは「自然ツーリズム」として大いに活用できる。父母ヶ浜や高屋神社だけでなく、紫雲出山、三好ジオパーク、屋島・五色台など広域への拠点として位置づける。</p>	<p>市としても、四国全域のゲートウェイとして、周辺自治体と協力しながらにぎわいを広域に波及させたいと考えています。</p> <p>詳細については、今後募集する運営事業者と検討していきますが、今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
32	その他	<p>市民と観光客では道の駅に対するニーズが異なる。各対象者に対する施設と Zone 化が必要であ</p>	<p>新たな道の駅は、市民の交流・憩いなどの日常利</p>

		る。	用と観光客へ本市の魅力を伝え消費・投資を促す拠点としており、本市としましても、各対象者でニーズが異なると認識しています。 今回いただいたご意見のとおり、各対象のニーズを意識した道の駅となるよう、今後募集する運営事業者や設計事業者と検討していきます。
33	その他	大阪万博には間に合わないが、今後定期的開催される「瀬戸内国際芸術祭」の1拠点としての役割を持たせる。	市としても、瀬戸内国際芸術祭に関連した取り組みは必要と考えており、瀬戸内国際芸術祭を含め、あらゆるイベントにおいて市内周遊のきっかけとなる拠点として役割を持たせたいと考えております。
34	その他	第1次産業・第2次産業・第3次産業別にどのような情報やサービスを提供し、そのアウトプット目標を設定する。	産業構造別での効果や必要な目標設定などにつきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。 また、新たな道の駅開業後は必要な方に、道の駅来客者層の分類・購入情報等の提供をするなどの検討をしていきます。
35	その他	道の駅での雇用を考える中で、高齢者や学生、海外就業者などの活躍の場づくりも考える。	ご意見のとおり、幅広い方の活躍の場づくりは重要と考えますので、貴重なご意見として参考にさせていただきます。

36	その他	<p>「103万円の壁」対応により国・地方の税収減に加えて人口減少による減収が想定される中で、本事業だけでなく少子化・高齢化・教育・経済成長への資金配分計画を立てる必要がある。</p>	<p>新たな道の駅は人口減少による税収減に対応するため、新たな道の駅を拠点として交流・関係人口を増やし、「稼ぐ力」と「所得の循環」による地域経済の好循環をめざします。</p> <p>いただいたご意見は、本計画の内容とは別に、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
37	その他	<p>事業リスクを下げるためには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設建設費用の削減⇒段階的整備も検討する ・施設別の収益管理の仕組化 ・撤退後の再利用計画の立案 	<p>事業リスクの軽減に関する取り組みは必要と考えていますので、今回いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
38	その他	<p>この計画が観音寺市の未来を明るくする素晴らしい施設になることを心から願っています。そのためには、多くの人の意見を取り入れながら慎重に進めていただきたいと思います。毎日685人が訪れる風景を、何年先も安定して売上を上げながら実現できる仕組みをどのように作るのか、楽しみにしています！</p>	<p>引き続き多くの方からの意見を取り入れながら、長期に渡り多くの方に来場いただけ、安定した運営ができる道の駅となるよう十分検討し、進めていきます。</p>